



# 令和 7（2025）年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

令和 7（2025）年 8 月 15 日  
栃木県農業総合研究センター

## チュウゴクアミガサハゴロモの発生について

- 1 病虫害名 チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)
- 2 対象作物 ぶどう及びなし
- 3 発生経過
  - (1) 令和 7（2025）年 7 月 7 日、県北東部のぶどう（露地栽培）ほ場において、ハゴロモ類の成虫・幼虫及び枝への産卵が確認された。栃木県立博物館に成虫の同定を依頼した結果、チュウゴクアミガサハゴロモであることが判明した。また、同年 7 月 25 日、県南部のなしほ場においても、成虫及び枝への産卵が確認された。
  - (2) 本種は中国原産であり、海外では平成 22（2010）年以降、韓国、トルコ、フランス、ドイツ及びイタリアに分布が拡大している。国内では平成 29（2017）年に大阪府で初めて確認されて以降、関東以西の本州、四国及び九州の各地で発生が報告されている。
  - (3) 農作物への加害については、令和 6（2024）年に神奈川県、埼玉県、福岡県及び山梨県から、令和 7（2025）年に東京都、群馬県、熊本県、富山県、千葉県、大阪府及び奈良県から特殊報が発出されており、本県で 12 都府県目である。
- 4 形態
  - (1) 成虫の体長は 14～16mm 程度。前翅は茶褐色～鉄さび色。前翅前縁中央部に三角形の白斑が存在する（写真 1、3、4）。
  - (2) 幼虫は白色。腹部から白い糸状の蠟物質の毛束を広げる。
  - (3) 産卵痕は白い毛状の蠟物質で被覆される（写真 2）。
- 5 生態
  - (1) 本種は極めて広食性であり、農作物では、チャ、ナシ、リンゴ、ウメ、モモ、スモモ、オウトウ、ブドウ、カンキツ、カキ、クリ、イチジク、ブルーベリー、オリーブ、キウイフルーツ等への加害が報告されている。
  - (2) 国内における年間発生世代数など、生態は不明な点が多い。
- 6 被害
  - (1) 成虫、幼虫ともに集団で枝を吸汁し、多発生時には排泄物によりすす病を引き起こす。
  - (2) 成虫は枝皮を剥いで産卵するため、枝が損傷し、伸長抑制や枯死を引き起こす。
- 7 防除対策
  - (1) 令和 7（2025）年 8 月 6 日現在、本種に対して登録のある薬剤はない。
  - (2) 成虫、幼虫は見つけ次第捕殺する。産卵された枝は直ちに摘除し、土中深くへの埋設、または袋に密閉したうえでの処分など、適切に処理する。
  - (3) 本種は広食性のため、農作物だけではなく、庭木等も観察し、寄生を確認した場合は（2）のとおり対処する。



写真1  
ぶどうに寄生する  
チュウゴクアミガサハゴロモ成虫



写真2  
なし枝上の産卵痕



写真3  
チュウゴクアミガサハゴロモ (左)  
と在来のアミガサハゴロモ (右)

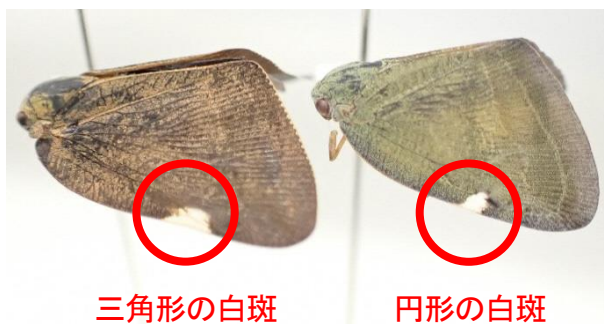


写真4  
チュウゴクアミガサハゴロモ (左)  
と在来のアミガサハゴロモ (右) の模様比較  
三角形の白斑      円形の白斑

詳細は、環境技術部防除課 (Tel028-665-1244) までお問合せ下さい。  
病虫害情報発表のお知らせは「[農業総合研究センターホームページ](#)」、「[栃木県農政部 X](#)」でご覧いただけます。



【センターHP】